

2022年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年9月14日

上場会社名 株式会社バリューゴルフ 上場取引所 東
 コード番号 3931 URL https://corp.valuegolf.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 水口 通夫
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部部長 (氏名) 渡辺 和昭 (TEL) 03-6435-1535
 四半期報告書提出予定日 2021年9月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)
 (百万円未満切捨て)

1. 2022年1月期第2四半期の連結業績(2021年2月1日~2021年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年1月期第2四半期	2,296	1.7	107	427.3	99	278.8	47	—
2021年1月期第2四半期	2,257	△21.3	20	22.1	26	116.9	△7	—

(注) 包括利益 2022年1月期第2四半期 47百万円(—%) 2021年1月期第2四半期 △8百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年1月期第2四半期	26.44	26.40
2021年1月期第2四半期	△4.34	—

(注) 2021年1月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年1月期第2四半期	2,351	1,037	44.0
2021年1月期	2,076	1,000	48.1

(参考) 自己資本 2022年1月期第2四半期 1,035百万円 2021年1月期 998百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年1月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2022年1月期	—	0.00	—	—	—
2022年1月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年1月期の連結業績予想(2021年2月1日~2022年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,800	29.8	180	96.5	170	71.5	100	—	57.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 -社 (社名) 、除外 -社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2022年1月期2Q	1,807,000株	2021年1月期	1,792,700株
② 期末自己株式数	2022年1月期2Q	191株	2021年1月期	191株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2022年1月期2Q	1,802,278株	2021年1月期2Q	1,792,516株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算説明資料の入手方法について)

当社は、2021年9月15日 (水) に機関投資家及びアナリスト向けの説明会を開催する予定です。当日使用する四半期決算説明資料は、TDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント等情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2021年2月1日～2021年7月31日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)の世界的な感染拡大の影響により、断続的な緊急事態宣言の発令やまん延防止等重点措置の適用がなされるなど、経済活動が制限された状態が続きました。国内経済は、外需に牽引され、輸出や生産業は緩やかな改善の気配が見られたものの、対面型サービス消費を中心に業績が低迷するなど、業種間の二極化が強まりました。また、世界経済は、中国経済の回復や欧米でのワクチン接種拡大に伴う経済活動再開等により、改善に向かいつつあるものの、米中貿易摩擦の長期化や変異株によるCOVID-19の再拡大など、先行き不透明な状況が続いております。

ゴルフ事業を取り巻く環境におきましては、梅雨前線による大雨で、土砂災害が発生するなど東日本の太平洋側で局地的な影響が出ましたが、他のエリアでは例年に比べ日照時間が長く、ゴルフ場利用者数の前年同月比は5月30.8%増、6月18.0%増となりました。(経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」)。また、東京オリンピック2020において、女子ゴルフ日本代表が銀メダルを獲得するなど注目を集め、ゴルフ業界に明るいニュースをもたらしたことで、一般ゴルファーのゴルフ熱が高まると期待されます。

トラベル事業を取り巻く環境におきましては、COVID-19感染拡大防止策の一環として、一部を除いて国境を跨ぐ往来が停止されており、観光目的の入国は引き続き認められない状況が続いております。訪日外客数は5月が10,000人(2019年同月比99.6%減)、6月が9,300人(2019年同月比99.7%減)となり、低水準で推移しております。また、出国日本人数も5月が30,123人(2019年同月比97.9%減)、6月が30,700人(2019年同月比98.0%減)と激減(日本政府観光局「JNTO」)し、世界的に旅行需要が停滞している状態にあります。国内においても東京で4度目の緊急事態宣言が発令されるなど人の流れを抑制するための措置等が講じられ、人の移動を基とする旅行業界にとっては非常に厳しい状況が続きました。

このような環境の下、当社グループは『1人予約ランド』を核にしたゴルフ事業の更なる拡大を推進し、トラベル事業における損失を吸収し前年を上回る利益を確保する等、経営の効率化に成功いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,296,991千円(前年同期比1.7%増)、営業利益107,019千円(前年同期比427.3%増)、経常利益99,454千円(前年同期比278.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益47,655千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失7,785千円)と、第2四半期として最高益となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、ASPサービス『1人予約ランド』における会員数が引き続き堅調に推移し、2021年7月31日時点で、会員数は79.1万人(前年同期比15.7%増)となりました。また、ゴルファーからの要望を受け、予約機能の改善やオンライン予約の同伴者事前登録機能など新しい機能を順次搭載いたしました。今後も利用者の声に耳を傾け、より高機能・高品質のサービスを提供してまいります。

広告・プロモーションサービスにおいては、『VALUE GOLF WEB』へのアクセス数が前年比110%超の水準で推移しており、各サービスにおける集客効果が強化されております。「バリューゴルフレッスン」(ゴルフ場にて開催するレッスン)においては、新たな開催会場の開拓と新規講師数の増加に注力し、業界最大規模であるレッスンサービスのさらなる拡大を継続してまいりました。

ECサービスにおいては、国内のゴルフ用品需要の高い状態が続きました。好調を維持すべく、ジーパズオリジナルのプライベートブランドや日本製品などの商品ラインナップを充実させました。しかしながら、世界的な材料不足や円安などの影響により、商品原価が上昇しており先行き不透明な状態となっております。

バリューゴルフ大崎においては、試打・練習・レッスン・ショップと複合サービスを展開する新たなゴルフ複合施設としてゴルファーより好評を得ており、引き続き堅調に推移しております。さらにサービス向上のため、個室ルームのシミュレーターを、詳細な弾道データが取れる最新の「TRACKMAN 4」に変更しました。これにより、クラブフィッティングなどの際に、より緻密なアドバイスが可能となりました。

以上の結果、売上高1,939,089千円(前年同期比9.8%増)、営業利益296,873千円(前年同期比23.0%増)となりました。

(トラベル事業)

トラベル事業におきましては、COVID-19感染拡大防止による人流抑制の影響を受ける中、本社移転や休業等を行い、さらなるコスト削減に努めました。海外路線の休航が続いているため、国内企画旅行に注力し、小規模国内ゴルフ旅行、バス旅行を企画、催行いたしました。さらに旅行事業で培ったネットワークを活かし、日本全国の特産品の販売も継続しております。COVID-19収束後の急激な需要回復を見越して、仕入れを強化するなど、先を見据えた準備を進めました。

以上の結果、売上高344,789千円(前年同期比26.7%減)、営業損失22,010千円(前年同期は営業損失58,835千円)となりました。

(その他の事業)

その他の事業セグメントにおきましては、広告メディア制作事業において、ブライダルメディア広告のクライアントである結婚式場等に来場者や問い合わせが増えるなど、徐々に回復する兆しが見られます。しかし、招待客数を限定するなど結婚式の規模の縮小や簡素化が増加しております。それにより結婚式場等の収益も伸び悩んでおり、広告掲載に繋がるにはもう少し時間が掛かると思われます。求人広告については、掲載を希望する企業が増えてきており、掲載依頼数も増加しつつあります。今後の案件数増加を見越して、受入体制強化のため、社内の制作体制の見直しを行いました。

以上の結果、売上高15,910千円(前年同期比26.8%減)、営業利益1,202千円(前年同期比123.0%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末と比較して274,274千円増加し、2,351,245千円となりました。これは主に商品の増加200,561千円、売掛金の増加34,789千円、現金及び預金の増加30,283千円によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比較して237,074千円増加し、1,313,437千円となりました。これは主に短期借入金の増加222,730千円によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比較して37,200千円増加し、1,037,808千円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益47,655千円の計上及び配当金の支払17,925千円による利益剰余金の増加29,730千円によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ29,983千円増加し、977,767千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、124,771千円の資金減少(前年同期は33,006千円の資金増加)となりました。

これは、税金等調整前四半期純利益99,454千円の計上、仕入債務の増加48,919千円による資金の増加、売上債権の増加31,906千円及びたな卸資産の増加200,561千円による資金の減少が主な要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、10,142千円の資金減少(前年同期は723千円の資金増加)となりました。

これは、無形固定資産の取得による支出7,032千円及び有形固定資産の取得による支出3,643千円による資金の減少が主な要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、164,829千円の資金増加(前年同期は32,141千円の資金増加)となりました。

これは、短期借入金の純増額222,730千円による資金の増加、長期借入金の返済による支出47,304千円及び配当金の支払額17,746千円による資金の減少が主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの2022年1月期通期連結業績予想につきましては、2021年3月12日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	978,711	1,008,994
売掛金	280,061	314,851
商品	502,719	703,280
旅行前払金	26,998	24,882
その他	41,140	75,880
貸倒引当金	△5	△5
流動資産合計	1,829,626	2,127,885
固定資産		
有形固定資産	42,652	43,246
無形固定資産		
のれん	17,254	2,464
その他	9,113	17,130
無形固定資産合計	26,368	19,595
投資その他の資産		
その他	189,762	169,118
貸倒引当金	△11,439	△8,601
投資その他の資産合計	178,323	160,517
固定資産合計	247,344	223,360
資産合計	2,076,970	2,351,245
負債の部		
流動負債		
買掛金	191,691	240,610
未払法人税等	10,403	39,495
短期借入金	390,910	613,640
1年内返済予定の長期借入金	86,330	65,666
旅行前受金	45,036	40,315
引当金	9,804	9,810
その他	152,404	143,836
流動負債合計	886,579	1,153,374
固定負債		
長期借入金	159,086	132,446
資産除去債務	30,696	27,616
固定負債合計	189,782	160,062
負債合計	1,076,362	1,313,437
純資産の部		
株主資本		
資本金	378,753	382,328
資本剰余金	371,244	374,819
利益剰余金	248,343	278,074
自己株式	△338	△338
株主資本合計	998,004	1,034,884
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	204	523
その他の包括利益累計額合計	204	523
新株予約権	2,400	2,400
純資産合計	1,000,608	1,037,808
負債純資産合計	2,076,970	2,351,245

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)
売上高	2,257,660	2,296,991
売上原価	1,607,930	1,546,137
売上総利益	649,730	750,854
販売費及び一般管理費	629,434	643,834
営業利益	20,295	107,019
営業外収益		
受取利息及び配当金	112	130
賃貸収入	307	307
為替差益	3,558	—
受取補償金	6,000	200
その他	220	228
営業外収益合計	10,199	867
営業外費用		
支払利息	3,306	2,935
支払手数料	578	247
為替差損	—	4,401
その他	352	847
営業外費用合計	4,237	8,432
経常利益	26,257	99,454
特別利益		
事業譲渡益	1,818	—
特別利益合計	1,818	—
税金等調整前四半期純利益	28,075	99,454
法人税、住民税及び事業税	11,046	35,241
法人税等調整額	24,815	16,557
法人税等合計	35,861	51,798
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△7,785	47,655
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△7,785	47,655

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△7,785	47,655
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△566	319
その他の包括利益合計	△566	319
四半期包括利益	△8,352	47,975
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△8,352	47,975

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	28,075	99,454
減価償却費	7,855	5,578
のれん償却額	27,008	14,789
受取補償金	△6,000	△200
事業譲渡損益(△は益)	△1,818	—
引当金の増減額(△は減少)	△10,175	△2,832
受取利息及び受取配当金	△112	△130
支払利息	3,306	2,935
為替差損益(△は益)	2,581	△67
売上債権の増減額(△は増加)	57,311	△31,906
旅行前払金の増減額(△は増加)	109,669	2,116
たな卸資産の増減額(△は増加)	△22,030	△200,561
仕入債務の増減額(△は減少)	△18,790	48,919
旅行前受金の増減額(△は減少)	△138,916	△4,721
その他	8,609	△61,652
小計	46,573	△128,279
利息及び配当金の受取額	102	130
利息の支払額	△3,301	△3,158
法人税等の支払額	△16,368	△6,069
法人税等の還付額	—	12,404
補償金の受取額	6,000	200
営業活動によるキャッシュ・フロー	33,006	△124,771
投資活動によるキャッシュ・フロー		
事業譲渡による収入	1,818	—
有形固定資産の取得による支出	△2,908	△3,643
無形固定資産の取得による支出	△271	△7,032
資産除去債務の履行による支出	—	△422
敷金及び保証金の差入による支出	△1,214	△95
敷金及び保証金の回収による収入	3,600	1,291
その他	△300	△240
投資活動によるキャッシュ・フロー	723	△10,142
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	100,000	222,730
長期借入金の返済による支出	△50,632	△47,304
株式の発行による収入	—	7,150
配当金の支払額	△17,249	△17,746
その他	22	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	32,141	164,829
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,581	67
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	63,289	29,983
現金及び現金同等物の期首残高	635,778	947,784
現金及び現金同等物の四半期末残高	699,068	977,767

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ゴルフ事業	トラベル 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,765,654	470,265	2,235,919	21,741	2,257,660	—	2,257,660
セグメント間の内部売上高 又は振替高	264	217	481	—	481	△481	—
計	1,765,918	470,482	2,236,400	21,741	2,258,142	△481	2,257,660
セグメント利益又は損失(△)	241,366	△58,835	182,531	539	183,070	△162,775	20,295

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告メディア制作事業、メディアカル事業を含めております。

2. セグメント利益又は損失の調整額△162,775千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ゴルフ事業	トラベル 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,938,916	344,502	2,283,418	13,572	2,296,991	—	2,296,991
セグメント間の内部売上高 又は振替高	173	287	460	2,337	2,798	△2,798	—
計	1,939,089	344,789	2,283,879	15,910	2,299,789	△2,798	2,296,991
セグメント利益又は損失(△)	296,873	△22,010	274,862	1,202	276,065	△169,045	107,019

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告メディア制作事業、メディアカル事業を含めております。

2. セグメント利益又は損失の調整額△169,045千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。